

特集 ①

地域の防災力を高めよう 「向こう三軒両隣」で災害から地域を守る

奥尻島の津波、阪神・淡路大震災、そして記憶に新しい東日本大震災。このような大きな災害が起きたとき、あなたはどのような対処ができるでしょうか。いっしょに考えてみませんか。

災害の備え、充分ですか

大規模な災害が発生したとき、市や消防などの防災関係機関は住民の生命と財産を守るため全力を挙げ、救援活動を行います。その活動や能力にも限界があり、すべてを守ることが困難な場合もあります。そのようなときには、個人の力だけではなく、隣近所と協力し災害から生き延びることが必要となります。「みんなのまちをみんなが守る」ため、「自主防災の必要性」について考えてみましょう。

自主防災組織とは

自主防災組織とは、地域住民の連帯感に基づき、自主的に結成する「共助」の組織です。地域住民が緊密に連携し活動することを想定しており、各地域において、町内会単位で結成し、日頃から大規模な災害に

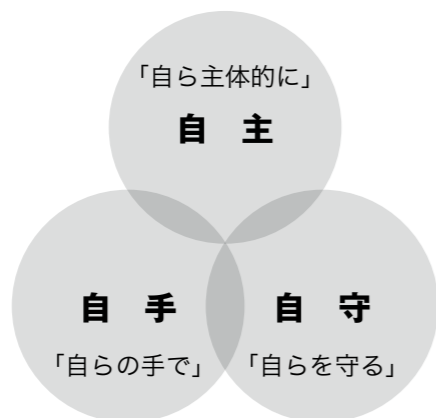
日頃の防災活動

自主防災組織の結成後、継続して防災活動に取り組むことが、地域の防災力向上を図るうえで大切です。日頃から取り組める防災活動には次のようなものがあります。

- 市の出前講座などを活用し、防災知識の習得や啓発に努める。
- 防災訓練や防災資機材の整備。

三つの「自」で災害に強い コミュニティを実現しましょう

地域の一人ひとりが災害に対する強い心構えを持ち、自分の生命は自分で守る（自助）ことを基本に、「地域の安心・安全は、自ら主体的に、自らの手で、自らを守る」という共助の精神で、地域の防災力を高めましょう。



防災に関するお問い合わせは
市・総務課 危機対策係 ☎56-5005

特集 ①

「災害は忘れた頃にやってくる」共助の精神でわがマチを守る

市・総務課
危機対策係
☎56-5005
本庁舎 2階

かもめ幼稚園

子ども × 体験

幼い心にも防災の芽を

昨年9月、かもめ幼稚園では津波を想定し、留萌神社まで歩いて避難訓練を行いました。普段の生活で実践している『お話を聴くこと、ふざけないこと、泣かないこと』。この3つの約束を守り、86名の全園児が13分で避難を完了することができました。



残暑の中、一生懸命に歩いて避難する園児たち。園では年3回の防災訓練を行っています

かもめ幼稚園職員の方たち

コミュニティ × 訓練

町内の結束が防災の第一歩

瀬幸会は瀬越海岸に面する13世帯42人の町内会です。乳幼児や高齢者などが人口の3割を占め、津波発生時の避難は重要な課題でした。そこで、自主防災組織を結成し、夏と冬の避難訓練を実施。即席の担架での避難訓練、冬場の避難路の把握に取り組んでいます。

瀬幸会



ほぼ全世帯が参加した避難訓練では手製の担架も利用しました

瀬幸会会長 前端的隆さん(右)と防災部長 渋谷卓司さん(左)

グループ × シミュレーション

まずは自分のマチを知る

今年2月、利用者と職員20名ほどでDIGを実施しました。市のほぼ全域を地図で把握しながら、災害が起きたときに何が障害物になり得るのかを模擬体験しました。自分達の生活圏以外のマチを知ることでもできるDIGはグループワークに最適でした。

障がい福祉サービス事業所 NPO 法人サポートハウスちゃお



NPO 法人サポートハウスちゃお利用者の皆さん

DIG に真剣に取り組むことで、マチの姿を知ることができます

元町地区連合町内会

コミュニティ × 連携

5つの矢で災害に備える

元町の5つの町内会が連携し自主防災組織を結成したのは平成17年。年に一度避難訓練や防災講習会、講演会などを実施しています。今では独り暮らしのお年寄りや身体の不自由な方などの所在も把握し、「いざ」という時に備えています。



あいにくの雨にも関わらず、地域住民が参加した避難訓練。付近の高台へ徒歩で避難しました

留萌市元町地区連合町内会事務局長 工藤幸男さん

※ DIG とは … 災害図上訓練の手法のひとつ。Disaster (災害)、Imagination (想像力)、Game (ゲーム) の略。地図を用い、災害を想定して危険が予測される地帯や事態を書き込んでいく。